

波佐ネット通信

No. 13 2015.4.22

「古代たたら製鉄」の共同研究者を募集中！

石見地方唯一のたたら資料館である浜田市金城歴史民俗資料館では、収蔵している、三浦文書、佐竹文書、古和文書、桑原文書などたたら文書 3,000 余点の共同研究者を広く求めています。

鍋滝鉦、栃下鉦、桂迫鉦、小松木鉄穴、鍋滝鉄穴などの大福帳（古文書）と絵図。儀定書、売仕切証、入会山の売買契約書、勘場の図面（方位鑑定付）、紀伊国屋弥左衛門、木津屋周蔵などの長割鉄の買付証文、たたら炉の図面（方位付）、現在、全点数悉皆調査中で、一部デジタル化進行中です。

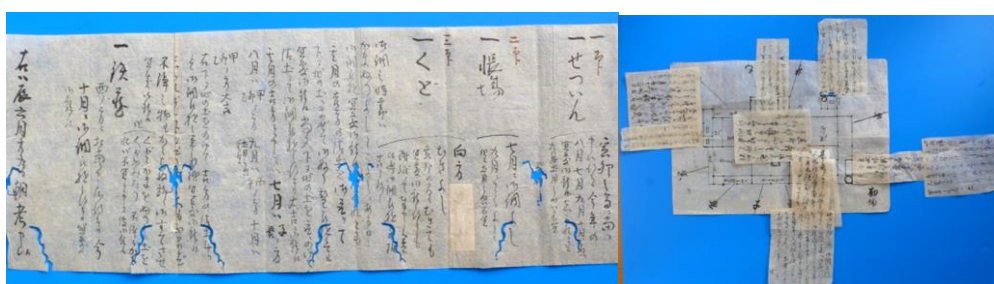
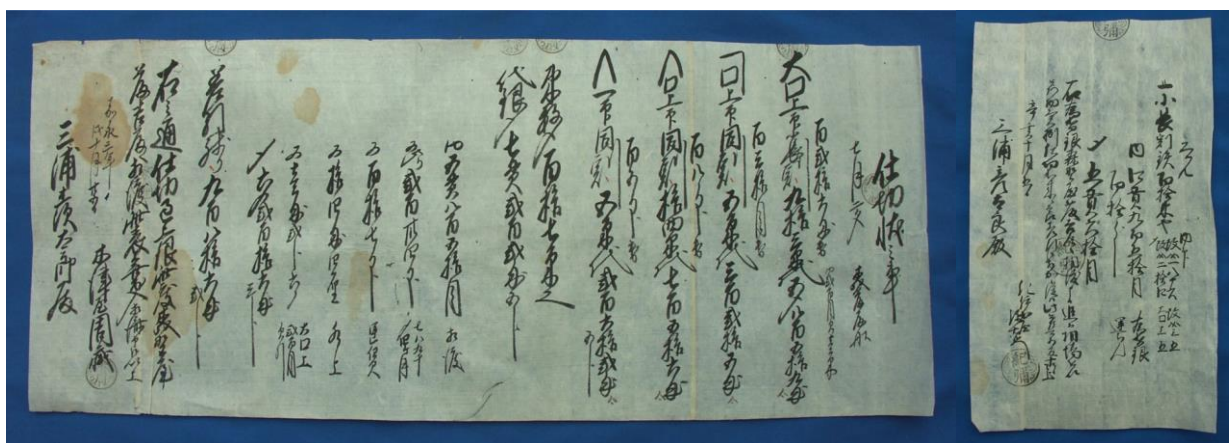
「桂迫たたら場」の砂鉄購入記録を見ると近隣の小松木、作見谷、境ヶ谷などの各鉄穴場からの仕入れ以外にも、井野村、古和、横山の各鉄穴場。浜砂鉄と目される折居、神主、敬川の砂鉄を購入している文書もある。これらの「小鉄請取帳」の記録によると文政・天保・弘化・嘉永・安政の江戸末期に石見地方の砂鉄採集地の方々から購入していることが判る。また、石見地方の「たたら場絵図面」、「鉄穴場絵図」、「鉄山儀定書」によって江戸時代末期の鉄山の衰退の経緯が把握できます。

「売仕切証」によって、波佐の産鉄が北前船によって、山形の酒田、福岡の博多、熊本の高瀬などへ流通していることも把握されています。

波佐の地は広島鉄山経営者との関係も深く、天正元年(1573)に、夏焼鉦（畑中氏）が開設。弘化3年(1864)加計の隅屋（佐々木氏）から鍋滝鉦の所有権が地元の三浦氏に移された。豊平の香川氏も波佐において、たたら経営を行っていた。桂迫鉦から広島高野町大谷鉦への人の移動もあります。

これらのことを解明して行くには、先学の研究者のお力をお借りして、共同研究で石見地方のたたら製鉄の研究を推進して行きたいと考えています。

お問い合わせは、地域研究センター協議会 090-4697-2818(事務局)まで、ご連絡をお願いします。



左上) 仕切証
右上) 覚
左下) 陰陽鑑定
右下) 勘場の方位付箋付